

第4回地域連携フォーラム・シンポジウム概要

1. 主催・共催・後援

主催：文教大学大学院人間科学研究科

共催：越谷市教育委員会・三郷市教育委員会

後援：春日部市・草加市・草加市教育委員会・吉川市教育委員会

2. 日時・場所

日時：平成26年1月25日（土） 午後2時から午後4時45分

場所：文教大学12号館12104教室

3. テーマ

子どもたちの健やかな心を育むコミュニティ作り

ー子ども・家庭の危機と家族支援ー

4. 企画趣旨

近年愛着関係(アタッチメント=子どもの安全感覚・居場所感覚)が注目されている。愛着関係の成立やその育ちを妨げる要因がどこにあるのか、都市化、高度情報化という生活文化の普及に伴ってアタッチメント形成に否定的な影響を与える生活様式がなぜ無自覚的に広まっているのかの解明は近年の大きな課題である。虐待現象の広まりはアタッチメント形成環境が損なわれてきていることをそのまま示していると見なせるからである。

愛着形成への否定的な影響を予防するための家庭支援が可能であるかどうか問題になるが、それは現に困っている家庭の直接的支援が効果的になされているか、さらには、その家庭の子供が思春期・青年期に対人不適応を起こさないように、アタッチメント形成のプロセスを支援し切れているかどうか問題になるということでもある。また、その家庭支援に求められる支援者間の連携のための要件の解明も重要な課題である。乳・幼児期の子どもを持つ両親は、自分の子どもが居場所感・安全感を感じられる育児環境・育児プロセスを構築できているかどうか、もし構築できていないとすると、それを検出し、支援することは可能かどうかというところが大きな問題となる。親に育児に困っているという自覚がない場合があり、自覚があっても支援は干渉と感じられることもあるので、支援を可能とする条件は非常に限られているともいえる。そのような問題の洗い出しを図ることが本シンポジウムの企画趣旨である。

5. シンポジウムの構成

(1)主催者挨拶 神田 信彦（文教大学大学院人間科学研究科長）

(2) 司会・企画趣旨 谷口 清 (人間科学研究科・発達心理学)

(3) 報告

① 橋本 喜與子 (NPO法人C・Cスペース代表理事)

家族の危機と子どものサポート

② 藤原 一夫 (三郷市専任教育相談員・埼玉大学)

学校不適應と家族の諸問題ー相談員になって気づいたことー

③ 関井 友子 (人間科学研究科・家族社会学)

育児環境貧困化の要因と課題

④ 布柴 靖枝 (人間科学研究科・家族心理学)

子どもの問題と家族支援のあり方

(4) 指定討論 櫻井 慶一 (人間科学研究科・社会福祉学)

(5) 質疑応答

(6) まとめ 谷口 清 (人間科学研究科・発達心理学)